



『41人の嵐』著者

星 美知子

ほし みちこ

両 俣 小 屋 管 理 人

山と図書館は似ている。どちらも日常から離れて一人になれる場所だと思う。一人になりゆっくりモノ思うことは案外大事だ。

私は南アルプスの小さな山小屋で40年ほど暮らしている。6月から10月いっぱいのことだが、毎日人に会うわけではない。小さい小屋ゆえに人が来ない日も多い。そんな時は本を読んだり、森の中を散歩したり、外の椅子に座って川のを聞きながらぼんやり木々を眺めて過ごす。風が吹いて木の枝がゆっくり動いている中に一枝だけピクピクと忙しく動いているのを見たときなどは声を上げて笑ってしまう。

例えば小学校の3年か4年の頃学校の図書館で読んだペリーヌ物語の中に、おじいさんに拒否されて一時期森の中で自給自足の生活をする場面があったと思う。長めの草を編んで靴を作ったり、水鳥の卵をゆでて食べたり野草や木苺を摘んで食べたり、枯草のベッドで寝たりと。物語だからそういうことができるのかなと思っていたら、およそ15年後、横井庄一さんがグアム島で発見され28年間の生活が公表された時、真っ先にペリーヌ物語の自給自足の部分を思い出した。



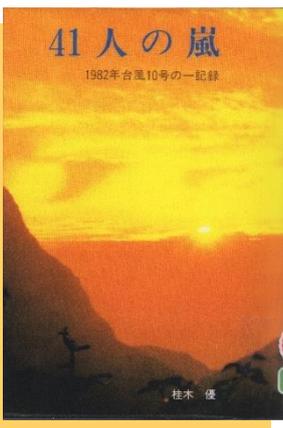
【山小屋にて・本人提供】

両俣小屋で暮らして2年目の8月1日、台風10号が静岡県御前崎付近に上陸し中部山岳地帯を北上したため静岡県、山梨県、長野県は特に被害が大きかった。テント場に16人、小屋には私を含め25人がいたが、夜中の山津波、川の氾濫に見舞われ小屋が埋没する事態になりながらも3,033Mの山越えをして逃げた。山中で小屋掛けをして嵐の中で一夜を過ごした時には、確かに横井庄一さんやペリーヌが手を貸してくれた思いがした。

この時の体験は『41人の嵐』という本にまとめ南アルプス市立中央図書館に収めてある。

41人の嵐

1982年台風10号の一記録



『41人の嵐』
桂木優/作
山梨日日新聞社

プロフィール

1950年福島県生まれ。

早稲田大学第二文学部中退。

1978年夏から、夏は広河原ロッジ、冬は八ヶ岳ロッジで働く。1981年から20年間は、夏は両俣小屋、冬はスキー場の生活となる。1982年8月1日、台風10号に見舞われた時の様子を桂木優のペンネームで『41人の嵐』に記す。1983年からは、両俣小屋の管理人に委嘱され、現在に至る。山と溪谷社刊の『小屋番三六五日』に寄稿。高桑信一著『山小屋の主人を訪ねて』に取り上げて頂いた。

おすすめ本・YAの冊子

4月からFacebook・Twitterで更新している、おすすめ本の紹介が冊子となりました。各館ごと紹介してきた内容が児童書・一般書とそれぞれ1冊にまとまっています。

冊子に掲載されている本は、市内の図書館に所蔵があります。読む本に迷った時・新しい本に出会いたい時には、ぜひこの冊子を参考してみてください。今後も冊子を発行していく予定です。



中学生・高校生に向けたおすすめの本、YA(ヤングアダルト)おすすめ本冊子を年3回発行しています。中・高校生に読んでほしい、いちおしの本が載っています。こちらは中央図書館での配布となります。ヤングアダルト特集コーナーもありますので、図書館に来た際にはぜひご覧ください。

YA(ヤングアダルト)とは？

子どもから大人への移行期、出版界ではこの世代に向けて作られた図書を「ヤングアダルト」とよびます。

新型コロナウイルス感染症関連資料の収集と保存について

市立図書館では、市内のものを中心に、新型コロナウイルス感染症に関する資料を収集しております。この状況を後世に残すために、現在の状況がわかるものを保存していく予定です。

冊子、パンフレット、リーフレット等、寄贈を受けておりますので、ご協力いただける方は中央図書館(055-280-3300)までご連絡ください。



中央図書館(055-280-3300) 中央図書館芦安分館(055-282-7285) 白根桃源図書館(055-284-6010)
八田ふれあい図書館(055-285-5010) わかくさ図書館(055-283-1501) 甲西図書館(055-282-7291)